

偉大な小国 ウルグアイ

田中 径子

本誌の「ラテンアメリカ随想」のバックナンバーでは、日本でのラテンアメリカについての知識不足を嘆く声が散見されるが、ウルグアイもその例外ではない。国名をパラグアイと間違えられることは日常茶飯事、中にはウクライナと間違える人までいるし、時には「ウルグアイってアフリカのどこにあるんですか?」と聞かれる始末。このところ日本ではムヒカ前大統領とサッカーのフォルラン選手で少しは知名度が上がったものの、GATT ウルグアイラウンドも最近の若い人はご存知ない。白地図でウルグアイの位置を正確に示せる人は日本にどれだけいるのか? かく言う私自身も果たして5年前にそれが出来たか自信がないのだが。

ところが、実はウルグアイは様々な分野で南米一番、あるいはラテンアメリカで一番、世界で一番ということもあるユニークな国なのである。

まず、ウルグアイはラテンアメリカでは民主主義が極めて浸透している国である。20世紀初頭から民主政治が始まり、1973年から1985年の軍事政権時代を除き民主主義が深く浸透している。(民主主義指数：ラテンアメリカ1位)

また、これは人口300万人強の小国(面積は南米で二番目に小さい)であり、不正をしてもいづれ知り合いを通じてバレてしまうからではないかと思うが、汚職や賄賂といった腐敗がほとんど見られないということも特筆すべきだろう。(腐敗認識指数：ラテンアメリカ1位)

ところが今年9月にウルグアイとしては大変まれなことであるが、センディック副大統領がANCAP(燃料アルコールセメント公社)総裁時代に社用クレジットカードを私用に不正使用した疑惑で辞任した。が、任期中のトータルのクレジットカード支払額は数百万円程度。これが全て私的使

用ということはないだろうから、ここまで厳しいのには驚いた。しかし、これはある意味ウルグアイという国がいかに汚職や賄賂に厳しい国で、政治制度が健全に機能していることを示しているとも取れる。同氏が辞意を表明した同じ日に、隣国の元閣僚のアパートから17億円の現金が発見され逮捕されただけになおさらそう思うのである。(政治的・経済的改革指標：ラテンアメリカ1位。法の支配指数：ラテンアメリカ1位)

ちなみに後任の副大統領はムヒカ前大統領夫人のルシア・トボランスキー上院議員である。

小国であることは外交等、他の面でもウルグアイらしさを形作っているようである。まず外交ではブラジルとアルゼンチン両大国に挟まれた緩衝国であり、両国との関係および両国間でのバランス維持を特に重視している。近年アルゼンチンとは同国における政権交替を機に関係は大きく改善し、例えば2030年のサッカーワールドカップ大会に向けて共同で開催地として立候補しているのもその証であろう。

また、ラテンアメリカ諸国の中では極端に左派ではなく、地域の紛争等の仲介を申し出ることもよくあるが、小国であるが故に裏に別の意図があるのかを勘ぐられることもない。2015年のバスケス



ラブラタ川に面した首都モンテビデオ

(提供：在ウルグアイ日本国大使館)

大統領訪日時には日本の国連安保理常任理事国入りを支持するとの嬉しいサプライズ発言もあり、また共に安保理非常任理事国である2016～17年、北朝鮮問題をはじめ様々な局面で日本の立場を支持してくれている。毎年8月には新聞別冊の子供向け雑誌で必ず広島、長崎についての記述があるなど、平和を愛する国民である。(世界平和度指数：ラテンアメリカ3位、PKOへの派遣人数：人口比率で世界1位)

また、優秀な人物であれば、国際機関においては大国の出身者と違って国益が考慮されないため多くの支持を得られやすいというメリットもあると思われる。これまでもイグレスィアス米州開発銀行(IDB)前総裁(元外相)、オペルティ・ラテンアメリカ統合連合(ALADI)元事務局長(元外相)、アルマグロ米州機構(OAS)事務局長(前外相)といった人材を輩出している。

メルコスール(南米南部共同市場)の原加盟国であり、メルコスール事務局がモンテビデオにあるこ

とは当欄の読者であれば先刻ご承知のことだろうが、ウルグアイは一貫して自由・開放経済政策をとっている。二大国の間という地の理を活かし全土に11のフリーゾーン(投資促進法による各種免税優遇措置あり)を設け、多くのグローバル企業がウルグアイをメルコスールあるいは南米市場のロジスティック・ハブにしている。金融ももともとラテンアメリカの富裕層の安全な資産の預け先となっていた国だけに、自由で海外からの投資がしやすい環境にある。

最近ではブラジル、アルゼンチン両国の景気変動によるウルグアイ経済への影響を減らすべく、メルコスール市場以外との貿易拡大に力を入れており、今や輸出・輸入とも最大の貿易相手国は中国である。過去13年間経済成長率は連続してプラスであり、ここでもウルグアイの安定度は際だっている

第一次バスケス政権時には、公立小中学校の生徒に無償でノートパソコンをひとり1台配布した。これにより特に地方では生徒の家族も含め、ITリテラシーが向上した。第二次バスケス政権では年

金生活者にタブレット端末の無償配布も始めている。(IT国際競争力：ラテンアメリカ2位)

同性婚は2013年より合法化。国としては世界で初めて政府がマリファナの栽培及び販売を行い、この7月からは薬局におけるマリファナの販売が開始されたのは皆様もご記憶にあるだろう。

ところがウルグアイはこのように非常に先進的、革新的な取り組みをする一方で、保守的、現状肯定的なところもある国である。

例えば食生活。レストランのおそらく8割はアサード(ウルグアイ風バーベキュー)を提供するパリジャーダ。タイ料理、ベトナム料理といったエスニックレストランはほとんど存在しない。確かにウルグアイ産のグラスフェッドの牛肉は赤身なのに柔らかく、風味豊かで大変美味しい。(一人当たり牛肉消費量：約60kgで世界一)

休日に家族や友人が集まって長い時間をかけてアサードを行うのはウルグアイの文化として根付いているが、もう少し新しい料理にもトライしてもいいのではないかな、と思う。ちなみに肉が焼けるのを待ちながらウイスキーをちびちび飲むのも伝統で、ウルグアイのひとりあたりウイスキー消費量は世界2位である。(では1位はどここの国でしょう？ 答えは文末に)

他国の人がウルグアイ人を形容する言葉で真っ先に出てくるのはtranquiloという言葉。辞書には「静かな。のんびりした。落ち着いた。おっとりした。」との訳語が並ぶ。スペイン、イタリア等欧州からの移民の子孫が人口の約9割を占め、



2015年の安倍総理大臣とバスケス大統領の首脳会議

(提供：内閣官房内閣広報室)

街並みの落ち着いたたたずまいから日本からの来訪者には「ここは南米じゃなくてヨーロッパの街みたいです」とよく言われる。実際自然災害もないし、温暖な気候、社会保障も充実している。凶悪犯罪はほとんどない。(治安：ラテンアメリカ1位)

人口の10倍の食料をまかなえる農畜産国であり、とりあえず食べるものに困ることはない。一人当たりGNIは南米で一番高く、社会保障も充実しており貧富の差も少ない。(繁栄指数：ラテンアメリカ1位、ジニ係数：ラテンアメリカで1位)

となるといきおい現状にはさしたる不満がなく、ハングリー精神や危機感と言ったものには無縁の人々がかなり多い気がする。腐敗がないのも私利私欲が少ないことと関係あるのかもしれない。

これまで述べたようにウルグアイは暮らしやすく、フリーゾーン等の環境も整っており、またホワイトカラーは特に優秀な人材も揃っているのも、ぜひ新たにメルコスール市場あるいは南米市場への進出を考えている日本企業にウ

ルグアイに来て頂き、のほほんとしているウルグアイの人達に刺激を与えて頂きたいと思う次第である。現在両国の主要産業は補完関係にあるがウルグアイは農業以外の産業育成が今後の課題であり、日本からの投資は大歓迎である。これまでのロジスティック・ハブに加えて米州全体の決済業務などを行う金融センター、あるいはラテンアメリカの統括本社、またはインフラと人材を生かしたIT関連の投資先として有望ではないかと個人的には思っている。

日本とウルグアイは2021年に国交100周年を迎える。小国であるが、ラテンアメリカ地域で日本と価値観を共有する重要なパートナーであり続けることと思う。また長期的な日本の食料安全保障における安定的な供給先を確保する上でも極めて重要と考える。私はおそらく来年初めには大使としての任期を終えるが、今後も何らかの形で両国の関係強化に貢献出来れば幸いである。字数の関係でウルグアイ独特の文化(シャマータやムルガといったイベント、マテ茶、タンゴの名曲「ラ・クンパルシータ」

が生まれた地など)について残念ながら触れられなかったが、これらの普及は帰国後の課題としたい。

●民主主義指数 democracy index 2016 (The Economist Intelligence Unit)

→ウルグアイは「完全な民主主義」順位は19位、ラテンアメリカで1位。日本は「欠陥のある民主主義」で20位。

●腐敗認識指数 corruption perception index 2016 (Transparency International) https://www.transparency.org/news/feature/corruption_perceptions_index_2016

→ウルグアイ順位は21位、ラテンアメリカで1位。日本は20位。

●政治的・経済的改革指標 Transformation index 2016 (BTI Bertelsmann Foundation)

<http://www.bti-project.org/bti-home/>

→ウルグアイ順位は4位、ラテンアメリカ1位。(先進国は評価に含まれない)

●法の支配指数 Rule of Law Index (World Justice Project, 2016)

<https://worldjusticeproject.org/our-work/wjp-rule-law-index/wjp-rule-law-index-2016>

→ウルグアイ順位は20位、ラテンアメリカ1位。日本は15位。

●世界平和度指数 global peace index 2017

Institute for Economics and Peace

<http://www.visionofhumanity.org/#page/indexes/global-peace-index/2014>

→ウルグアイ順位は35位、チリ24位、コスタリカ34位に次ぐラテンアメリカ3位。日本は10位。

●PKOContributions (2017年6月)

<http://www.un.org/en/peacekeeping/resources/statistics/contributors.shtml>

●治安

<http://wispiindex.org/#/global-rankings/>

●繁栄指数 Prosperity Index (Legatum Institute, 2016)

<http://www.prosperity.com/rankings>

→ウルグアイ順位は28位、ラテンアメリカ1位。日本は22位。

●ジニ係数

→ウルグアイ順位はラテンアメリカ1位

https://data.worldbank.org/indicator/SI.POV.GINI?end=2014&locations=ZJ&name_desc=false&start=2007&view=chart

●IT国際競争力

<https://www.globalnote.jp/post-1523.html>

ウイスキーの一人当たり消費量世界一位の国は意外なことに「フランス」です。

(たなか けいこ 在ウルグアイ日本国大使)



ウルグアイ独特のカーニバルの演目「ムルガ」

出所:UCIM/Secretaría del MERCOSUR